

〈(2)-9〉

主体者/ 連携・協力先	株式会社ユニ・トランド/ 十勝バス株式会社、北海道拓殖バス株式会社、北海道大学
取り組み名称	路線バス活性化・地域活性化ICTサービス
取り組みポイント	■ (1) 地域交通の取り組み ■ (2) 情報利活用の取り組み □ (3) 生活基盤への取り組み
取り組み課題	公共交通活性化・地域活性化

<取り組みの概要>

路線バスを中心とした公共交通を活性化するため、利用者が少なくなった路線バス等に専用の目的地検索サービスやバスロケーションサービスを組み合わせ、まずは利用者増に繋がる仕組みを提供している。

なぜバスに乗ってくれないかという部分については、時刻が合わないとか利便性が悪いとか様々な理由があるが、色々なバス会社様のサイトを見ていると、行きたいところにどのバスに乗っていけば良いのかすぐにわからない。目の前のバスは自分の行きたいところに行くのか等、利便性云々よりも、利用者の不安を解消することをまずは取り組んだ。

地図上から目的地をタップし検索をかけると直近のバス停から目的地近辺のバス停までの検索結果を表示したり、検索結果に乗り間違えないようにバスの写真を表示したり、バス会社毎に乗り方(前乗り・中乗り・整理券・支払い方法)を表示する仕組みを作成。

一方、バスに乗らないもう一つ理由は時刻表に書いてあるバスが既に通過したかどうかわからないという部分で大きな機会損失をしている場合があり、そこを解決するためにバスロケーションサービスを導入した。

検索されたバスが現在、どこを走っているかを表示することにより、荒天時等の遅延発生時に上記のような機会損失を少なくし、利用者の不安と利便性向上に繋がる。また、一方で域外からの利用促進のため観光地へ路線バスの利用を促すサービスもリリースしており、さらなるバス利用活性化とともに観光スポットの情報発信にも繋がる。

並行してバスの位置情報とバスに様々なセンサーを取り付け、例えば乗降センサー等を取り付けてバス停毎の乗降客数を見たりすることにより、的確なダイヤ編成のみならず街の動きが可視化され、様々なデータを重ね合わせることで、新規の路線シミュレーションや街づくりの一助になればと考えている。特に十勝地方での取り組みについて本格化されてきた。

<取り組みポイントについての具体的説明>

(1) 地域交通の取り組み

- ・ 地方の路線バスへの目的地検索サービスを提供
- ・ バスロケーションサービスの提供
- ・ 駅等のバスターミナル待合室でのサイネージのサービス提供
- ・ 乗降センサーの導入
- ・ FIT対策とした多言語化 (検索:5ヶ国語、バスロケ2ヶ国語 対応)
- ・ 観光地と公共交通を連動する観光サービス
- ・ 様々な切り口(時間・便・気候等)での乗降者数等を可視化するサービス

上記サービスの組み合わせで、路線バスの利用者数の増加に繋げていく取り組みを実施している。

(2) 情報利活用の取り組み

バスロケーションから得られる位置情報とバスに様々なセンサーから得られる情報をベースにして、どの場所で何が起きているということを可視化が可能となる。

さらにそこに様々なオープンデータ(天候・地域の人口分布や年齢層等)を重ねることにより、今まで見えなかったことについても可視化することができる。

可視化されたデータを蓄積して人工知能を利用することにより、新しい路線のシミュレーションやデマンド推奨エリアやバス事業者が利用者を増やすための効果的な営業ゾーンの提案等を、蓄積データを利用することにより可能となり、この取り組みはこのような情報活用の第一歩となる。